

西区

「災害時にサポートが必要な人の
ための支援マニュアル」



社会福祉法人 横浜市西区社会福祉協議会
障害福祉関係分科会（旧障害者福祉部会）

平成20年3月

「災害時にサポートが必要な人のための支援マニュアル」の発行にあたって

社会福祉法人 横浜市西区社会福祉協議会
会 長 柳 川 荘一郎

阪神淡路大震災以降の10年間は大規模災害が相次いで起こりました。その都度、情報収集や行動・判断にハンディキャップがある人が避難生活などで苦労したという話を伺っています。

この横浜市でも大地震が起きる可能性がありますし、台風や集中豪雨などの自然災害に襲われることも想定されます。自分たちが被災したときに、安全を確保するために何が大事なのか、事前に何を準備しておくべきなのかを、先例を参考にしながら自分たちで考え、実行に移すことが早急に求められています。

本会では、「西区福祉保健計画」と目標を共有した「区社協福祉プラン～思いやりと助けあいのあるまちに！～」を作成し、その推進に区と共に取組んでいます。両計画のリーディング事業の一つである『サポートが必要な人』の安全確保対策事業』の取組みとして、「災害時に支援が必要な人への支援のためのガイドライン」が平成17年度末に作成されました。

その推進・具体化を図るため、本会では平成18年度、19年度の2年間に渡り、重点項目に位置づけ、支援が必要な人だけでなく、ボランティアや地区社協の方々に参加いただきご意見を伺う機会を作っていました。

このたび、それらの意見を元に、「災害時にサポートが必要な人のための支援マニュアル」としてまとめることができたのも、多くの皆さんのご協力の賜物です。最後になりましたが、検討に参加していただいた皆様に深く感謝いたします。

このマニュアルが、今後の地域における災害時の支援が必要な人への取組みの一助として活用していただけることを切に願っています。

災害時にサポートが必要な人のための支援マニュアル作成に取り組んで

社会福祉法人 横浜市西区社会福祉協議会
障害福祉関係分科会 会長 深野 博子

災害は障がいがある人にもない人にも同じようにやってきます。

西区社会福祉協議会障害福祉関係分科会(旧：障害者団体部会)では、平成18年度、19年度の2年間に渡り、障がい当事者や家族、支援者、自治会町内会、地区社協、民生委員等の地域関係者と一緒に、障がい者が「災害時にどのようなサポートが必要なのか？」を話し合ってきました。

その中で、災害時にはまず「自分で自分の身を守る」＝自助が一番大きな割合を占めること、日ごろからの備えが大切であるということを知りました。棚が倒れてこないようにビス止めをしておく、避難場所の確認をしておく等の一般的な「災害対策」ということだけでなく、「普段から地域との関係性」をつくっておくということがとても大切なことであり、「自分で自分の身を守る」ことにつながるのだということを確認しました。

しかし、地域との関係作りは私たち障がい当事者や家族、支援者だけでできることではありません。地域の方々にも一緒に取組んでいただくことが大切です。関係作りの第一歩として障がい特性の理解を進める場作りなど、地域・行政関係機関の方々と共に検討させていただきたいと考えており、それらの思いを「Ⅱ地域ができること」と「Ⅲ行政・関係機関がおこなうこと」としてまとめてあります。

もちろん、このマニュアルに書かれたことだけが全てではありません。このマニュアルをきっかけに、西区内で具体的な検討や取組みが始まることを願っています。

障害福祉関係分科会(旧 障害者福祉部会)での災害への取組経緯

(平成 17 年～平成 19 年度)

《平成 17 年度》

①災害シンポジウムの開催

障害者団体部会主催で災害シンポジウムをおこないました。

月 日	講 師	場 所	参加人数
9 月 29 日(木) 10:00～12:00	①日赤神奈川県支部救護課長 湯川高彰 氏 ②西区役所総務課 奈良輪庶務係長 西区福祉保健課 行徳事業企画係長 ③障害児者団体部会部会長 柴田常雄 氏	西区役所3 AB 会議室	40 人

②井戸端会議の開催

災害シンポジウムの内容をうけ、障害児者団体部会主催で「災害時に向けて自分達でできること」をテーマに井戸端会議を開催しました。

月 日	コーディネーター	場 所	参加人数
10 月 28 日(木) 10:00～12:00	宇都宮短期大学 専任講師 西尾敦史氏	藤棚地域ケアプラザ	26 人

《平成 18 年度》

①井戸端会議の開催

平成 18 年度は「互助」＝地域でできることをテーマに、地区社協部会・ボランティア部会・区内ケアプラザに参加を呼びかけ、井戸端会議を開催しました。10 月の井戸端会議では地域の避難訓練に障害児者団体部会で参加し、意見・感想をもとに話しあいをしました。

月 日・場 所	テーマ	コーディネーター	参加人数
6 月 30 日(金) 戸部本町地域 ケアプラザ	災害について「地域でできること」を 考えよう!	宇都宮短期大学 専任講師 西尾敦史氏	57 人
10 月 25 日(水) 西区役所会議室	地域の避難訓練に参加してみて 感じたことを話そう!		42 人

②地域の避難訓練への参加

障がい者自らが地域を知る必要があることを知り、一本松小学校地域防災拠点避難訓練に合同参加をしました。障害児者団体部会長・副部会長が地域防災拠点運営委員会に参加しました。

月日・場所	内 容	参加人数
8 月 11 日(金) 一本松小学校	一本松小学校地域防災拠点運営委員会	団体部会 2 人 事務局 2 人
9 月 3 日(日) 一本松小学校	地域の方々と一緒に一本松小学校まで避難する。 ルート①野毛山公園前バス停⇒一本松小 ルート②境之谷東部自治会館前⇒一本松小	33 人

3

生活上的援助について	
服薬確認	必要
フリルキーの有無	不要
生活上必要とする援助・配慮	

2

血液型	A ・ B ・ O ・ AB
医療保険	1健保 2国保 3共済 4その他()
保険証番号	
かかりつけの医療機関 など	名称 所在地 電話・FAX 担当医
治療の疾患	
服用薬の種類	
服薬上の注意	

4

所属団体 (学校・通所先・職場等)	名称
	所在地
	電話・FAX
緊急時の連絡先①	氏名:
	住所:
	電話・FAX:
	カード保持者との関係:
緊急時の連絡先②	氏名:
	住所:
	電話・FAX:
	カード保持者との関係:
避難場所(指定避難場所)	
家族等の集合場所	

1

防災カード

ふりがな	男
氏名	女
生年月日	年 月 日生
年齢	才
電話	
FAX	
障害種別	
障害者手帳	1 身障手帳(種 級) 2 療育手帳 3 精神障害者保健福祉手帳(級) 4 手帳なし

緊急連絡先


電話番号

住所

私の名前

お願いカード
(しょうがいがあり
こまっています。

わかるように書いてください




緊急連絡先

電話番号

住所

私の名前



お願いカード
(しょうがいがあり
こまっています。

わかるように書いてください

お願いカード
(しょうがいがあり
こまっています。

今、何が起きているのですか？



私の名前

住所

電話番号

緊急連絡先

お願いカード
(しょうがいがあり
こまっています。

ゆっくり話してください



私の名前

住所

電話番号

緊急連絡先